

寝屋川公園の昆虫

寝屋川公園で見られる昆虫を紹介します。
寝屋川公園は樹木や草木などたくさんの種類の植物があります。このような環境では昆虫もたくさんくらしています。
何種類の昆虫に出合えるか？散歩のついでに昆虫観察もいかがでしょうか？

◎アオスジアゲハ

撮影：9月22日
越冬態：蛹
場所：カセボの丘
アゲハチョウ科



寝屋川公園で最もよく見かけるチョウです。幼虫がクスの葉を食べて育つため、クスの多いこの公園はアオスジアゲハにとっては天国のような場所なのでしょう。

△コムラサキ

撮影：8月2日
場所：憩いの広場
タテハチョウ科



カナブンやハナムグリと一緒にクスの樹液を吸っていました。
橙色と紫色のまだら模様。オスは光線の方角で紫色に輝く。樹液に集まる習性があります。幼虫はゴメヤナギ、シダシヤナギ、ドロノキ、ヤブナラシ、ホナラシなどのヤナギ科植物の葉を食べます。

◎ヒカゲチョウ

撮影：6月13日
場所：第二野球場北
タテハチョウ科



少し薄暗い場所にいることが多いです。クヌギやコナラの樹液に来ているところをよく見かけます。
幼虫はタケヤササ、ススキなどの葉を食べて育ちます。
日本固有種です。

◎コマダラチョウ

撮影：8月5日
場所：憩いの広場
タテハチョウ科



翅には白い点か散りばめられているやや大型のチョウです。寝屋川公園では写真のように、夏になるとコナラの幹でカナブンやハナムグリたちとの樹液争いが見られます。幼虫は頭部に長い角のあるナメカジ型イモムシで、エノキの葉を食べ育て育ちます。冬になると樹木の根元の落ち葉の中で越冬します。



：昆虫に出会えるポイント

監修：寝屋川公園管理事務所
写真：寝屋川公園・自然の会

◎ホシミスジ

撮影：6月21日
場所：テニスコート西
タテハチョウ科



ユキヤナギのある付近でよく見かけます。後翅裏の付け根にある黒点(写真矢印)がこのチョウの名前の由来です。
公園や街中の花壇にユキヤナギが植えられているようになり、すっかり街の蝶となりました。幼虫はシモツク、ユキヤナギ、コチドリなどの葉を食べます。

◎サトキマダラヒカゲ

撮影：8月14日
場所：寝屋古墳北側
タテハチョウ科



クヌギやアベマキ、コナラなどの樹液に集まっている。夏の寝屋川公園では樹木の幹で頻繁に見られます。
幼虫はモウソウチク、マダケなどの葉を食べて育ちますが、成虫に比べて見かけることは少ないです。

△イチモンジセセリ

撮影：12月5日
場所：苗圃
セセリチョウ科



セセリチョウの中で最も普通に見られるチョウです。写真はホトケナギの花に来ていたところですが、通常は幼虫で越冬しますが、成虫でも冬を越すことができます。
幼虫は、イネ、チカヤ、シラスゲなどの葉を食べます。

△アカシジミ

撮影：6月14日
場所：花の道
シジミチョウ科



花の道の林縁にある葉の上にとまっています。日本に25種類いるセファルスと呼ばれる樹上性シジミチョウの一種です。
幼虫はフナナ科植物のコナラ、ミズナラ、アベマキ、クヌギ、アラカシなどの新芽や若葉を食べます。

◎ベニシジミ

撮影日：9月11日
場所：ふれあいの丘
シジミチョウ科



草地や荒地などで、地上に近い所を飛ぶ紅橙色の小さなチョウです。
幼虫はスイハバやギンギンなどの葉を食べて育ちます。

△ウラナミシジミ

撮影：10月23日
場所：ソフトボール広場南
シジミチョウ科



後翅の先端に糸状のものがついています(尾状突起とよばれます)。翅裏の白色帯が波状の模様になります。
暖地で発生して、世代を重ねながら北上します。秋の終わりごろにセツダツグサの花に飛来しているところをよく見かけます。

△ウスキツバエダシヤク

撮影：10月28日
場所：管理事務所
シヤクカ科



よく似た種があり識別は難しいですが、本種がもっとも普通に見られます。写真は管理事務所の壁にとまっています。
幼虫はクヌギ、ヤナギ、サシコジュなどいろいろな植物を食べる、広食性の尺取虫です。

○ウラギンシジミ

撮影：11月2日
場所：ソフトボール広場西
シジミチョウ科



サザンカの葉の上で翅を拡げて日光浴をしていました。
写真は、翅の表面にオレンジ紋があるのでオスは、メスの場合は銀白色紋があります。成虫越冬のため一年中見られます。
幼虫はフジ、エンジュ、クスなどヤマ科植物のつぼみ、花、果実、幼葉を食べます。

◎ヒメアカタテハ

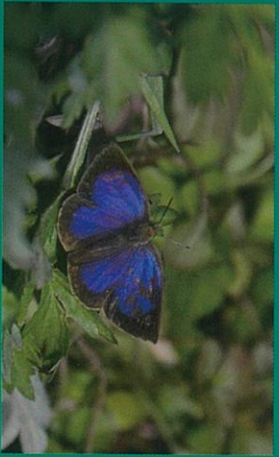
撮影日：6月13日
場所：彩り花壇
タテハチョウ科



明るく開けた環境が好きなチョウです。移動性が高く、夏から秋にかけて、温暖地から寒冷地に向かってほとんど分布を広げます。幼虫または成虫で越冬しますが、寒さに弱いので温暖な地域でしか冬越してきません。幼虫の食草は、ヨモギ、コホウなど。幼虫期に巣を造る習性があります。

◎ムラサキシジミ

撮影：12月27日
場所：花の道
シジミチョウ科



寒いときに翅を開いて日光浴する。アラカシやアラカシなどの照葉樹の葉にとまっていることが多いです。
幼虫は、アラカシやアトバシイなどフナ科の若葉を丸めて潜んでいる、ワラジ型イモムシです。

◎オオスカシバ

撮影：7月25日
場所：エントランス
スズメカ科



日中に飛翔し、いろんな花にやってきました。花にはとまらず、ホバリンク状態で吸蜜します。人が近づくと素早く飛び去ります。幼虫の食草はクチナシで、公園のクチナシでも大型のイモムシがたたくさん発生します。